

40452

教科書文庫

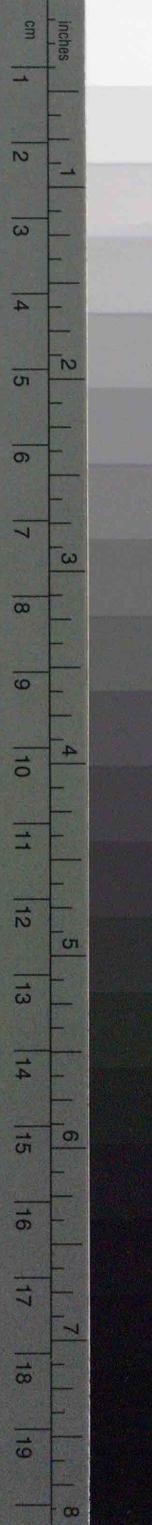
4
110
31-1910
2000.0 41899

**Kodak Gray Scale**

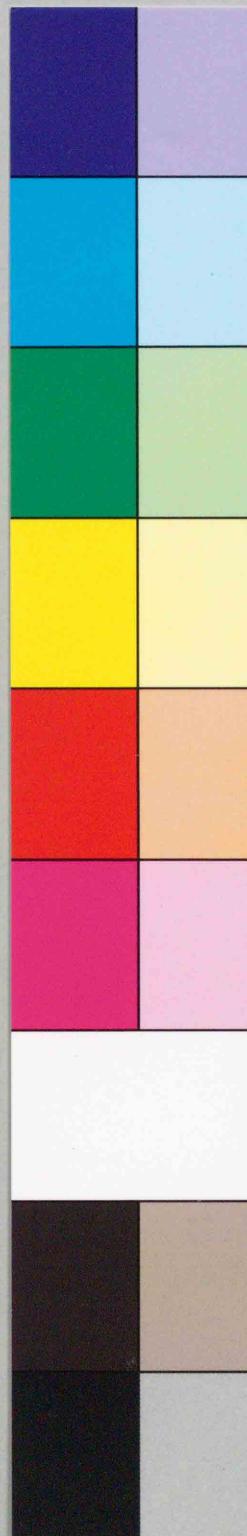
C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

**Kodak Color Control Patches**

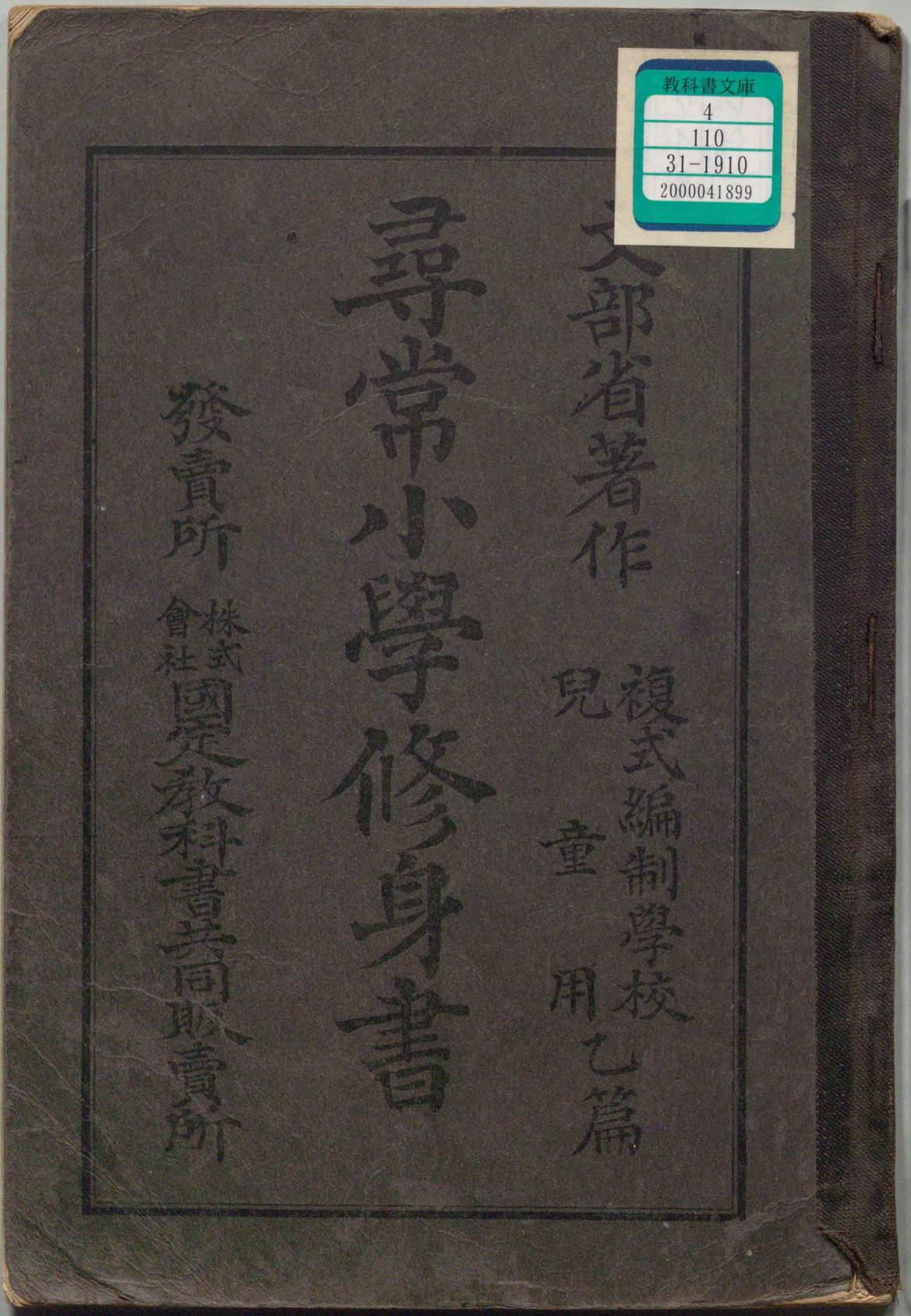
© Kodak 2007 TM: Kodak



人部省著作  
模式編制學校  
見兒童用乙篇

中華書局學修印書

發賣所  
株式會社國文教科書共同發賣所



4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

資料室

375.9  
M014

教科書文庫  
4  
110  
31-1910  
2000041899

文部省著作

複式編制學校  
兒 童 用乙篇

# 尋常小學修身書

広島大学図書

2000041899



發賣處



國

國定

教科

發賣所

株式會社國定教科書販賣所

もくろく

だい一 父母のおん	一	だい十三 やくそくをまもれ	二十
こ一こ一	三	だい十四 おんをわされるな	二十二
きよーだいはたすけあへ	四	だい十五 ちゅーくん(忠君)	二十三
がくもんをつとめよ	五	だい十六 ちゅーくん(づき)	二十五
だい四	六	だい十七 あいこく	二十七
だい五	七	だい十八 ほーれい(法令)をおもん	二十八
じえい(自營)	九	せいよ	二十九
あしきすすめにしたがふ	十	だい十九 きよーどー(共同)	三十
な	十二	だい二十 こーえき(公益)をはかれ	三十一
めいしん(迷信)をさけよ	十三	だい二十一 じぜん(慈善)	三十三
からだについてのこころ	十五	だい二十二 教育	三十五
え	十七	だい二十三 男のつとめと女のつと	三十七
かちく(家畜)をむごくあつ	十九	め	三十八
かふな	十	だい二十四 よい日本人	三十九
ゆーき	十二		
けんそん	十四		
しょーじき	十八		

圖書之印

廣島大學圖書之印

大學教島廣 41899

だい一 父母のおん

二宮金次郎の

うちはたいそー

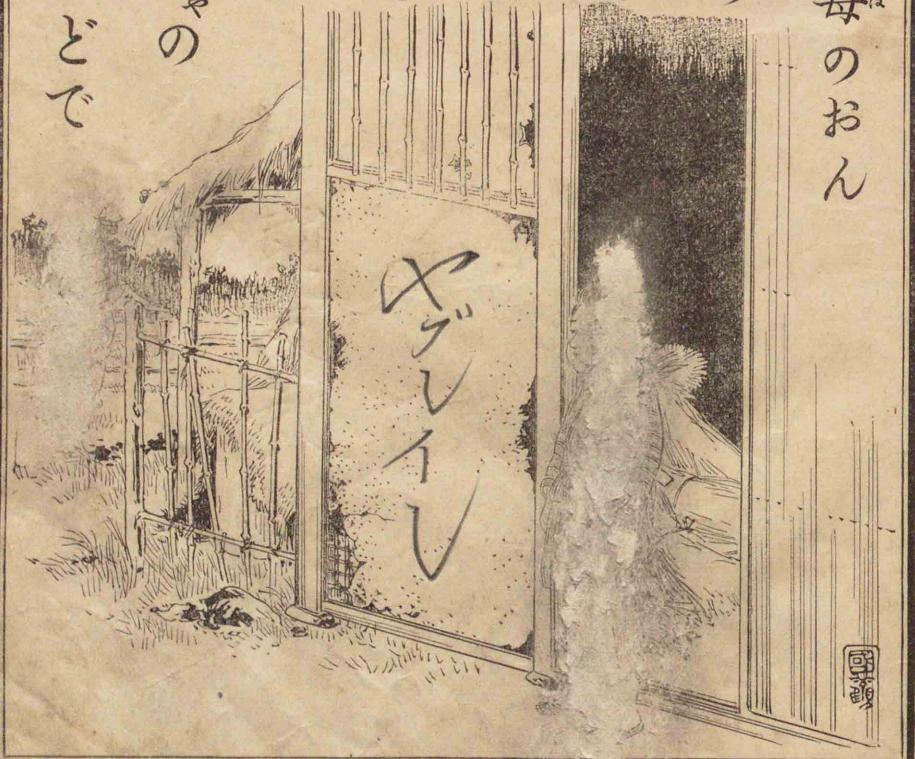
びんぼーで、おと

うさんかびょーき

にかかつたとき、で

んじをうつて、いしゃの

おれいをするほどで



ありました。そんななんぎな中で、おとうさんやおかあさんはいろいろとくろーをして、子どもをそだてました。

金次郎は、おとなになつてからも、おやのごおんのありがたいことをおもひだしてはなきました。

父母ノオンハ山ヨリモタカ久ウミヨ  
リモフカシ。

だい二 こーこー

金次郎

はこーこー  
一な子で、小さいと  
きからおとうさん  
の手だすけをしま  
した。

金次郎が十四の  
とき、おとうさんがなくなりました。

おか



あさんはくらしにこまで、すゑの子をしん  
るいにあづけましたが、たいそーあんじて、  
よるもよくねないほどであります。そ  
れで金次郎はおかあさんにすすめて、おと  
うとをよびもどしました。

金次郎はたすけあへ  
それから金次郎はあさははやくから山  
にいてたきぎをとりました。またよるは

おそらくまで、  
なはをなつたり、  
わらぢをつく  
たりしました。

シバカリ

金次郎はこのよー<sup>きんじろう</sup>  
にすこしもやすまず  
はたらいて、おとうとをやしなひました。

だい四 がくもんをつとめよ



金次郎はおかあさんがなくなつてから、を

ぢの家にひきとられ

ました。金次郎はじ

ぶんであぶらなをつ



た。をぢは「本をよむよりうちのしごとを

くり、そのみをあぶら  
ととりかへて、まいば  
んがくもんをしまし

せよ」といひましたから、金次郎はいひつけ  
られたしごとをすましたあとで、べんきょー  
しました。

だい五 じえい

金次郎がじぶん

の家にかへる

ことにな

りました



とき、その家はあれはててゐました。

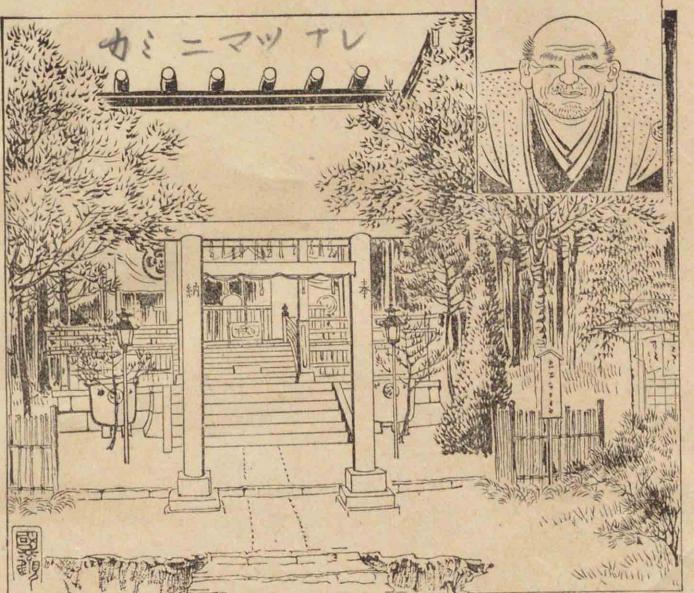
金次

郎はそれをじぶんでなほしてすみました。

それからも金次郎

はせいだしてはたらいて、しまひにはえらい人になりました。

カンナンナンデヲタマニス。



だい六 あしきすすめにしたがふな

むかし板倉九右衛門といふやくにんが

ありました。ある



ときやくしょのかねがなくなりましたので、なかまのやくにんたちはたいそ

しんばいして、めいめいかねをだし、

て、ないしょにしておかうと、九右衛門にすすめました。けれども九右衛門は「ありのままにまうしてたほーがよい」といて、それをききいれませんでした。

だい七 めいしんをかけよ

あるところに目をわづらつてゐる人がありました。めいしんのふかい人で、お水をうけて目にさしてゐましたが、日日わるく

なるばかりでありました。ある日、しんるいのものがみまひにきて、むりにいしゃのところにつれて、見てもらはせましたら、いしやはばやくおいでになればよかつたが、今になつてはなほすことがむつ



かしい」ともうしました。

だいハ からだについてのこころえ

からだをじょーぶ  
にするには、うんど  
ーするのがたいせ  
つであります。き  
ものはせいけつに  
しねることやしょく



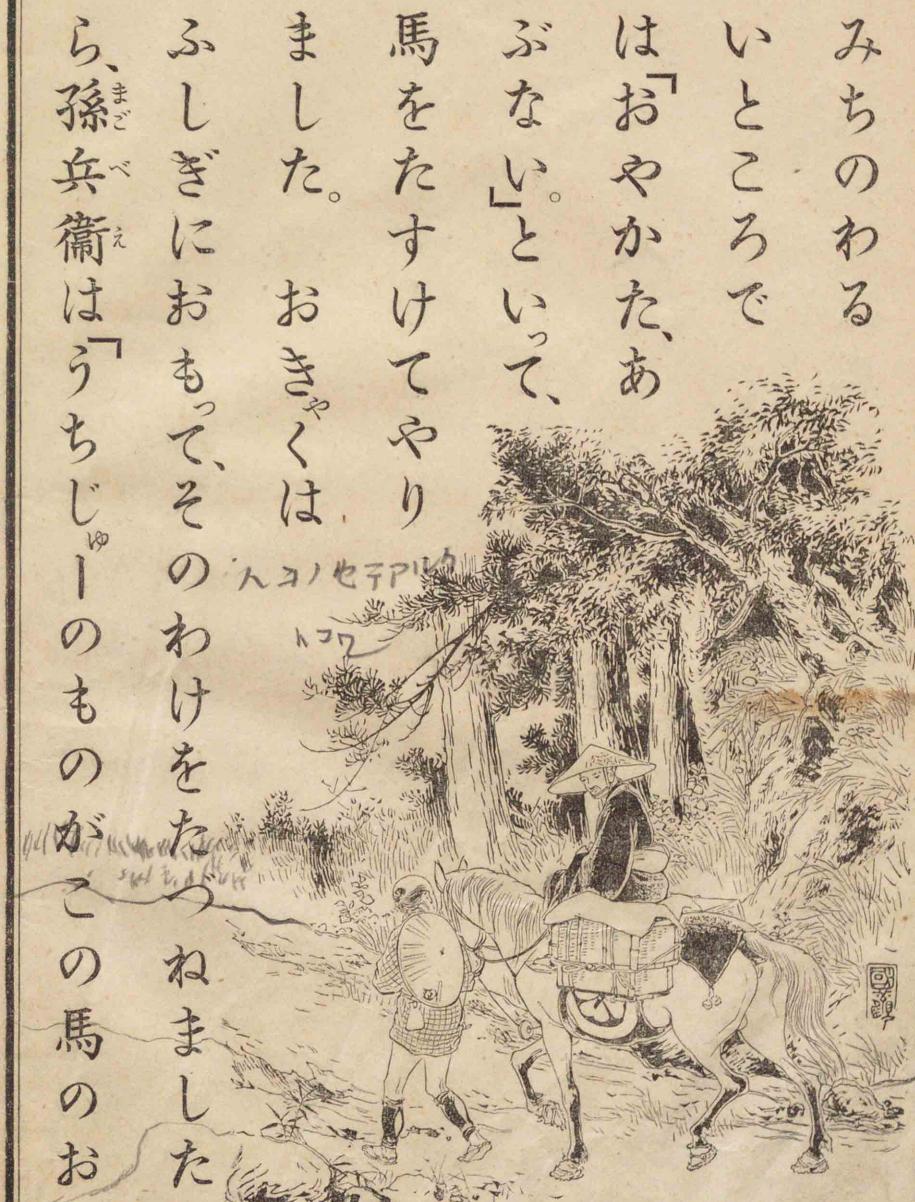
ナニ

じはきそくただしくせねばなりません。  
からだにあかをつけておくのは、びょーき  
のもとになります。うすぐらいところで  
本をよみなどすると、目をいためます。  
われわれはからだをじょーぶにして、つよ  
い日本人とならうではありませんか。

だい九 かちくをむごくあつかふな  
孫兵衛は馬におきやくをのせていくとき、

ナミ

みちのわる  
いところで  
は「おやかた、あ  
ぶない」といて、  
馬をたすけてやり  
ました。おきやは  
ふしげにおもつて、そのわけをたずねました  
ら、孫兵衛は「うちじゅーのものがこの馬のお



かけでくらしてゐますから、おやかただと  
おもつてのことであります」といひました。

だい十 ゆーき

日本のかんたいはロシヤのぐんかんが  
旅順口から出られぬよーに、ふねをしづめ  
て、その口をへいそくしました。このへい  
そくは三どもおこなつたのであります、そ  
れにいった人ははげしくたいほーのたまが



### だい十一 けんそん

吉田 松陰よしだ しょーいんのでしに

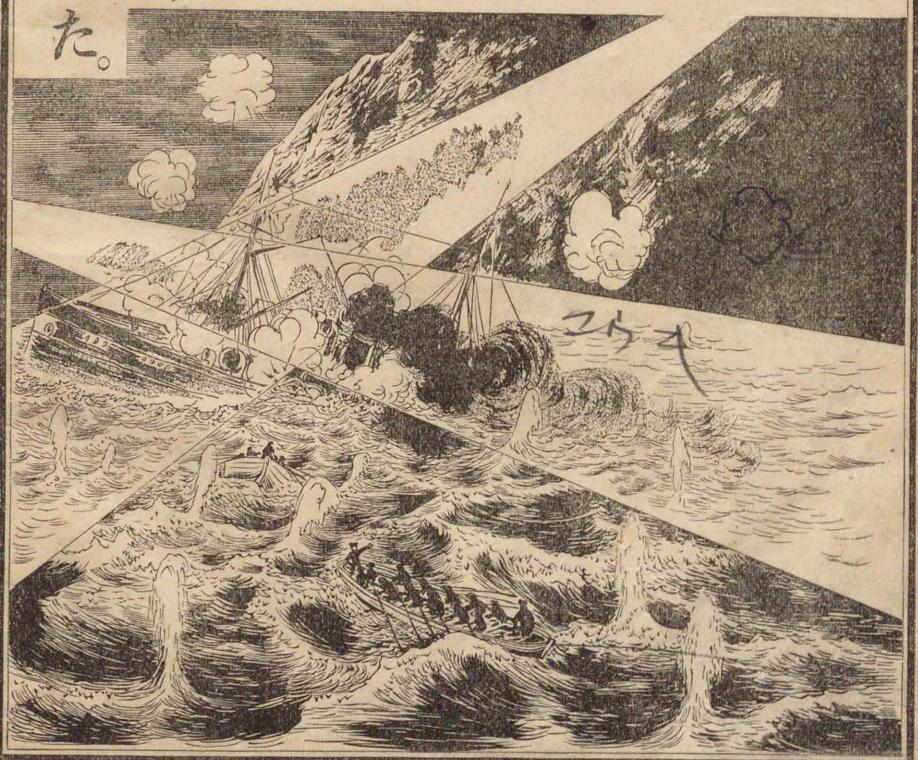
久坂 義助くさか よしそうと高杉 晋作

といふふたりのりっぱ  
な人ひとがありました。

義助よしそうは晋作しんざくのことを

高杉たかすぎさんはえらい人  
で、わたくしどもはな

とんでくるなか  
で、いつもいさま  
しくはたらきま  
した。また行く  
人をきめるとき  
にも、のぞみてが  
おほくてこまる  
ほどありました。



かなかおよばぬ。といひ、晉作もまた「久坂さんはわたくしどものおよばぬすぐれた人だ。」といつて、たがひにほめてゐました。松陰はふたりがけんそんしあふのをきいて、たいそーよろこびました。

だい十二 しょーじき

ワシントンはにはにあそびに出て、父のだいじにしてゐるさくらの木をきりたふ

しました。「これは  
だれがきた」と父に  
たづねられたとき、  
「わたくしがきりま  
した」とかくさずに  
こたへてわびまし  
た。父はワシント  
ンのしょーじきなのをたいそーよろこびま



した。

だい十三 やくそくをまもれ

廣瀬武夫がロシヤにいくとき、ある子どもにロシヤのゆーびんきてをみやげにあげようとやくそくしたことがありました。そののち武夫が日本へかへるみちで、たいそーなんぎなところをとほることになりました。そのとき武夫はわざわざその

子どもにあてた手紙をかいて、中にロシヤのゆーびんきてを入れて、じぶんのにいさんにおくりました。これはじぶんがぶじにかへることができなかつたら、その子どもにとどけてもらふためでありました。



だい十四 おんをわされるな

荻生祖徳といふがくしはわかいときび

んぼーで、くらし  
にこまるほどで  
ありました。

き  
んじょのとーふや  
がそれをきのど  
くにおもつて、まい



にちおからをもってきてあげました。  
祖徳はしゃっせしてから、まい月、米をとー  
ふやにおくつて、おんがへしをしました。

だい十五 ちゅーくん

後醍醐天皇のみよに北條高時ほーじょうたかときがわがま  
までありましたので、天皇は楠木正成くすのきまさしげをお  
めしになつて、「高時たかときをうて」とおほせられまし  
た。正成は「き」とおぼしめしにかなふよー

にいたしました」とたのもしげにおこたへ  
をいたしました。



それから正成は  
わづかのぐんぜい  
で高時のたいぐん  
をなやました。  
そのうちに天皇の  
おみかたがおほくなつて、高時はとーとーほ

ろぼされました。

だい十六 ちゅーくん(つづき)

そののち足利尊氏あしかがたかうぢがむほんをして、みや  
このほーへせめのぼりました。正成まさしげはこ  
のたびのいくさにはいきてはかへれまい  
とおもひ、子の正行まさつらに「じぶんにかはつてよく  
ちゅーぎをつくせ。それがなによりのこー  
こーだ」といひきかせて、うちにかへしまし

た。このとき正行は十一でありました。

正行は、父のうちじにをかなしがって、はらをきらうとしました。

正行の母は、「父のをしへをわされたのか」と



いてとめました。

それから正行はふたおやのをしへをまもつて、りっぱなちゆーしんとなりました。

チューシンハコーシノモンニイヅ。

だい十七　あいこく

むかし元のへいがせめてきたとき、わが國のぶしはめざましくはたらいて、あいこのみちをつくしました。

なかにも河野かうの通みち  
有ありは小さいふねに  
のつて、てきのおほぶ  
ねをめがけて、まざ  
きにすすんでいき  
ました。そしてほ  
ばしらをはしごに  
して、てきのふねに



のりうつり、いさましくたたかって、とーとー  
たいしょーをとりこにしてかへってきました。

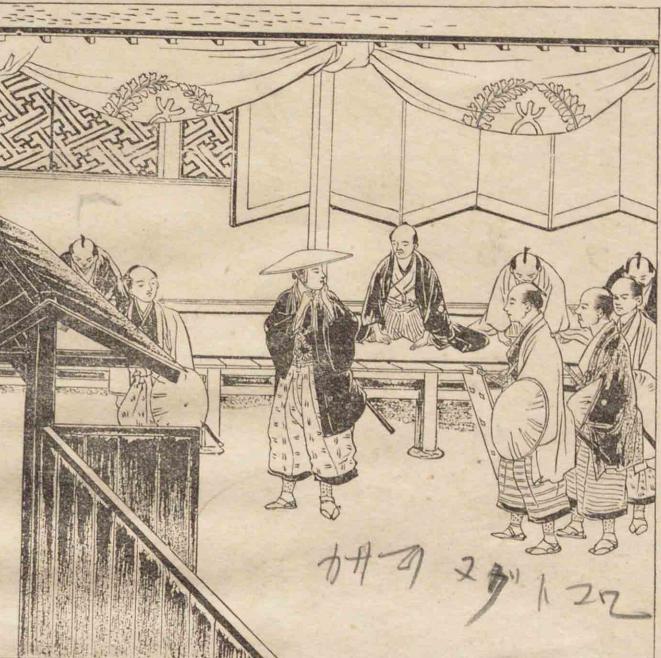
だい十八 ほーれいをおもんぜよ

ばくふのおもいやくにんに松平定信まつだひらさだのぶと  
いふ人がありました。あるとし京都への  
ぼるみちで、かさをかぶつたまま箱根はこねのせき  
しょをとほらうとしました。せきしょのやく  
にんはこゑをかけて、「きそくによつてかさを

おとりください』といひました。定信はこ

さだのぶ

三十一



れをきくとすぐに  
かさをとつてとほり  
ました。やがてつ  
かひをそのやくに  
んのところにやつて、  
『さきほどはせきしょ  
のきそくをまげずによくとがめてくれた。

かんしんなことだ』といはせました。

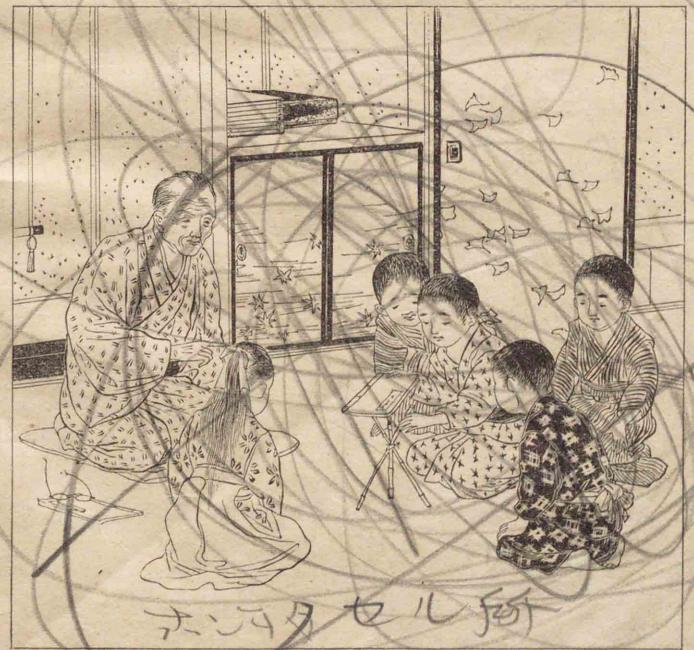
だい十九　きよーどー

としよりが子どもたちに『この三本のぼ  
ーをたてて、その上にゑほんをのせるくふ  
ーをしてごらん』といひました。

子どもたちはいろいろとくふーしまし  
たが、たちません。そのうちに一人の子ど  
もはぼーをよせてまんなかをくくり、はし

三十一

アラレカマニマ  
をひらいてたて、その上に魚ほんをのせました。そこでとしよりは一本づつではたたぬが、三本いらしょになると、このよしによくたちます。人もきよーどーすれば、なにごともよくできます」といひきかせ

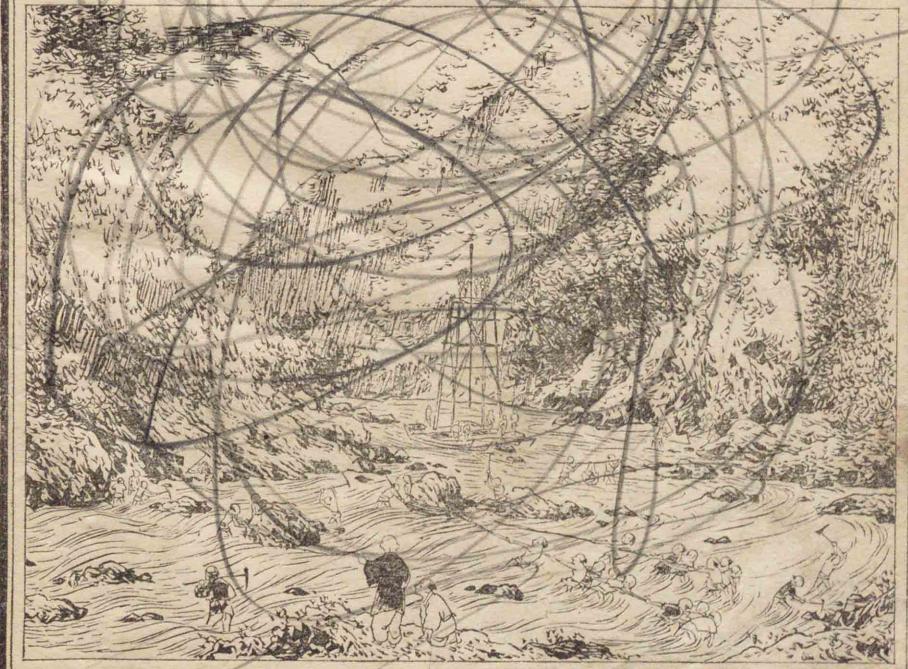


ました。

だい二ナ こーえきをはかれ

京都の西に大堰川といふ川があります。もとはいはがたくきんにあて、舟をかよはすことができませんでした。それで角倉子以といふ人がいろいろとくふしてこの川をひらいて、舟のかよふよーにしました。

そののちア以は  
また富士川の川ざ  
らへをいひつけら  
れて、それをもしと  
げました。また京  
都の賀茂川にそつて  
高瀬川といふ川を  
ほりうんそーのべ



アリヤル サカ

んりがよくなるよーにしました。  
だい二十一　じぜん

鈴木今右衛門ふとふはなさけのふかい  
人でありました。その子に十二になるむ  
すめがありました。あるきむい日おなじ  
としごろの女のこがものもらひにきました。  
今右衛門のつまはむすめに「あのこは  
ひとへもの一まいでふるへてゐます。お



まへのきてあるわた  
いれを一まいぬいで  
やりませんか』といひ  
ました。むすめはお  
となしく、よいほーの  
をぬいでやりました  
ので、今右衛門ふーふ  
はたいそーよろこびました。

### だい二十二 教育

わが國をさかんにするには國民のひと  
りびとりがよい人にならねばなりません。  
それにはみんなの人が教育をうけて、徳をを  
きめ、知識をみがき、からだをじょーぶにする  
のがたいせつであります。

わが國民はまん六さいになると、尋常小  
學校にはいって教育をうけねばなりません。

今はむかしとちがつて、小學校をはじめ、いろいろの學校ができて、<sup>きよいく</sup>教育をうけるのにつごーがよくなつたのはしあはせであります。

だい二十三 男のつとめと女のつとめ

男は家のしゅじんとなつてかぎょーをつとめ、女は男をたすけて家のせわをするものであります。男も女もめいめいそのほんぶ

んをわすれぬよーにせねばなりません。  
しゅーしんのこころえをまもり、知識をみ  
がくことは、男にも女にもおなじくたいせ  
つでありますが、わけて男はかはつにし、女  
はやさしくし、また男女ともそのつとめを  
つくすにひつよーな知識<sup>ち</sup>をみがかねばな  
りません。

だい二十四 よい日本人



天皇陛下は明治二十三年十月三十日に、  
ありがたい勅語をおくだしになりました。  
これまでならつたこころえをまゐるのは、そ  
のごしういにかなふことになるのであります。  
わたくしどもはこれらのこころえを  
わすれず、そのとほりにおこなつて、よい日本  
人にならねばなりません。

をはり

朕惟フニ我力皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ  
德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我力臣民克ク忠ニ克  
ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セル  
ハ此レ我力國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實  
ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦  
相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及  
ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器  
ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲  
ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉  
シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ

# 大日本

明治三十四年五月八日

文部省検査済

著作権所有

著作権者  
發行者

文部省

部

國

省

明治三十九年十二月廿一日 印刷  
明治三十九年十二月廿五日 発行  
明治四十三年八月一日 翻刻印刷  
明治四十三年八月十二日 翻刻發行

尋常小學修身書二篇  
複式編制學校用

定價金六錢

東京市日本橋區新右衛門町十七番地  
日本書籍株式會社

代表者大橋新太郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地  
愛敬利世

東京市小石川區久堅町百〇八番地  
印刷所 博文館印刷所

發賣所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
株式會社

國定教科書共同販賣所

ハ獨リ朕力忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ  
爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン  
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫  
臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬  
ラス之ヲ中外ニ施シテ惇ラス朕爾臣民ト俱ニ  
拳々服膺シテ咸其徳ヲ一ニセんコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

正

水

広島大学図書

2000041899

